

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-540	22-014	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳) Alcohol-related liver disease mortality and missed opportunities in secondary care: A United Kingdom retrospective observational study アルコール関連肝疾患の死亡率と二次医療における機会の損失：英国後ろ向き観察研究		
執筆者 Subhani M, Elleray R, Bethea J, Morling JR, Ryder SD.		
掲載誌 Drug Alcohol Rev. 2022;41(6):1331-1340. doi: 10.1111/dar.13482.		
キーワード	PMID	
アルコール関連肝疾患、死亡率、後ろ向き観察研究	35640649	
要 旨 <p>目的：アルコール関連肝疾患（ARLD）は予防可能な死因の一つであり、アルコール過剰摂取を特定し、ARLD の早期診断が重要である。先行疫学研究において、ARLD 死亡前の健康関連評価が詳細に行われていないことが多く、介入機会に関する理解が限られている。本研究は ARLD 診断の遅れに関連する因子を模索し、介入の機会を逸する要因を明らかにすることを目的とした。</p> <p>方法：英国東部中部地域のノッティンガムシャー州（人口 817,900 人（2017 年中期））における Office for National Statistics と Hospital Episode Statistics のデータベースをリンクし、2012 年 1 月 1 日～2017 年 12 月 31 日の 18 歳以上の ARLD 死亡者を特定した。ARLD は ICD-10 コードを用いて定義し、診断状況は肝硬変の診断が死亡 6 ヶ月以上前「早期診断」、6 ヶ月未満「後期診断」と分類した。介入機会の可能性は死亡前 5 年間の入院、事故・救急受診、外来受診で定義した。主要アウトカムは ARLD 死亡であり、単変量および多変量ロジスティック回帰分析を行い、主要変数（年齢、性、居住地域、貧困度五分位、人種、入院形態）と ARLD 診断状況の関連を検討した。各変数は相互に調整した。</p> <p>結果：ARLD による死亡は 5 年間で 799 人であり、死亡者の 13%が未受診、37.4%が死亡前 6 ヶ月以内に ARLD の診断を受けた。ARLD 診断の遅れとは、救急入院時の ARLD 診断と、白人種が有意に関連した。全体として、死亡前の 5 年間に中央値で入院 5 回、事故・救急受診 4 回、外来受診 16 回であった。治療はさまざまな専門科で行われており、入院は一般内科：88.7%、消化器内科：64.1%、肝臓内科：37.3%経路が上位であった。診断と通院に関して、ARLD とアルコールによる精神・行動障害が上位であった。またアルコール摂取による精神・行動障害は、早期診断群で 2 番目、後期診断群では最も多かった。</p> <p>結論：本研究は、ARLD の二次医療の欠点を明らかにし、アルコール問題をどのように管理し、どこに対策を講じるのが最善かを評価し、それを改善するために有用な手法を示した。</p>		